

年三月、澤田宗堅が前田綱紀の参勤に先行して江戸に至つた紀行で、所々の名蹟に就いての詩が載せてある。

カンブンドウシヨウキ 觀文堂四書講義 六十册。伊藤祐之の四書講義を、門人の筆録したもので、享保甲寅二月不破篤敬の序がある。

カンベエツカ 勘兵衛塚 河北郡那辰山もと庚申塚に並ぶ一峰に石碑が在つて、由比氏の祖先勘兵衛光清の塚であつた。龜尾記に、この勘兵衛死後も猶君邊に仕へんと欲し、金澤城の能く見える所に葬られることを遺言したによると記してある。今は山上を平野した爲に存せぬ。

カンベエドノマチ 勘兵衛殿町 金澤の舊町名。龜尾記に、『白鬚前より玉井氏邸地の後へかけて、カベドン町と俗に呼べり。是は勘兵衛殿町の呼び誤り也。昔津田勘兵衛の居邸此所に在りし故の遺名也。』とある。

カンベクランド 神戸藏人 父加助が天正十二年蟹江城に戦死した後、前田右近秀繼の室が藏人の叔母たるを以て、母と共に之に寄り、秀繼の卒後、嗣子又次郎利秀に仕へ、千石を賜はつた。後前田利長に仕へ、八王子・大聖寺の兩役に従軍。利常に至つて馬廻頭となり、元和元年の大坂再役には鐵炮足輕を領して従軍し、誤つて横山長次の臣齋藤某と味方討して命を殞した。享年四十二。但し可觀小説には、藏人は眞田丸惣構の木を脇指にて切り、その内へ一騎にて乗入り、敵大勢と鎗を合はせその場で戦死したが、首は味方に取つて歸つたとしてゐる。

無倍と訓ずる。越登賀三州志にいふ、神戸は即ち神田で、又神代ともいふ。蓋し氣多神社の神田なるが故に名づけたもので、後の神代是であるとしてゐる。

カンベゴウ 神戸郷 能登郡の古郷名。所在は詳かでない。

カンベジダユウ 神戸次太夫 清右衛門の三子。慶長五年召出されて前田利長に仕へ、二百五十石を受け、大坂再役に青屋口部下で首一つを獲た。次太夫屋敷を増して五百五十石に至り、寛永十三年父の死後更にその遺知百石を併せ、寛文九年七月歿した。

カンベジンザエモン 神戸甚左衛門 清右衛門の嫡子。前田利長の小々將となつて三百石を受け、元和二年父の祿八百石を襲ぎ、寛永十三年父の歿するに及び、その養老祿二百石を加へて千石を領し、十七年五月歿した。

カンベセイエモン 神戸清右衛門 實は前田右馬助の末子であつたが、前田利家の命により神戸加助の婿となつたもので、新知千三百石を受け、次いで津幡城の右近秀繼に附屬せしめられ、その嗣又次郎利秀の歿後、又利家に仕へ、後利長に隨うて富山に赴いた。慶長十四年の火災に獨難を免れた爲、利長はその家に寓すること三日であつたといふものは、即ちこの清右衛門の家である。利常の時寛永二年清右衛門剃髮して名を清庵と改め、隠居料五百石を受け、十三年正月歿した。

カンベチカモリ 神戸周盛 通稱金三郎・藏人。初諱長昌。寛政元年父三太夫武貞の遺知百四十石を襲ぎ、前田齊廣の御側付小將・御表小將を経て六十石を増し、文政五年二百石を加へて竹澤御殿御側用人となつた。

天保八年十二月歿。

カンベナガヨリ 神戸長頼 通稱藏人。父は藏人。長頼慶長十九年新知百五十石を受け、元和元年父の歿後その遺知千石を襲いだ。正保元年小松町奉行、寛文二年境奉行、六年先弓頭を経て、八年江戸で歿した。

カンベモノリ 神戸盛矩 通稱加平。寛政九年父庄兵衛盛象の遺知百二十石を襲ぎ、組外に列し、享和二年江戸御廣式御用人となり、文化九年三十石を加へて物頭並に進み、文政七年百石を増し、次第に昇進して大組頭に至り、天保十年致仕して月花翁と號した。盛矩亦刀劍の鍛法を二代泰平に學び、鑿牛軒と號して近古鍛法刀劍得失考入門を著し、又三州鍛冶系圖を改定した。諸士系譜に盛矩を成矩に作るものは誤であらう。

カンベユウキン 神戸友琴 金澤の俳人。又幽琴・幽吟に作り、識趣齋とも、山茶花山人ともいふ。初め京都に生まれ、學を北村季吟に習ひ、後北下して糕菓を賣るを業としてゐた。その著に俳諧金澤五吟・鶴來漣・卯花山・色杉原がある。寶曆三年十月十三日歿、享年七十四。

カンボウジ 觀法寺 カンボウジ 河北郡五箇庄に屬する部落。普濟和尚語録に、『論善救。七號普濟。生於加州河北郡英田盛族藤氏。七歲隸州之觀法寺。爲童行。十五禮寂室于淨住寺。』と見え、鄉村名義抄に、觀法寺村には往古眞言の七坊があつて、觀法寺がその頭寺であつたとある。

カンボウジヨウ 觀法寺城 河北郡觀法寺にあつた。越登賀三州志故墟考に、觀法寺村より南三町許の嶺山にあつて、土人木曾義

仲の營跡と唱へるとある。

カンム 甘藷 河北郡高松の俳人。奥州饒澤に翁塚を建て、『蝶のとぶばかり野中の日かげ哉』の句を録した。文政の頃の人。

ガンモン 巖門 羽咋郡福浦の北二軒に在つて、巨巖海中に突出したる下に貫通した標式的海蝕洞である。洞の長さ五四米許、小船を以て通過することができる。雁門と書くこともある。

ガンラクジ 願樂寺 金澤長田町に在つて、眞宗東派に屬する。

カンリユウイン 寬隆院 富山藩主第八代前田利謙の法號。詳しくは寬隆院寶山仁量大居士。

ガンリユウジ 願隆寺 能美郡湊に在つて、眞宗東派に屬する。

ガンリユウジ 願隆寺 鳳至郡五十洲に在つて、眞宗東派に屬する。

カンリヨウ 環亮 江沼郡上原なる眞宗東派法圓寺の僧。父は惠琳。明和六年を以て生まれた。好んで墨竹を描き、畫號を碧雲とも玉環ともいふた。文政九年八月十九日寂、五十八歳。法名華淨庵歡亮。

カンリヨウ 觀了 羽咋郡赤住なる眞宗東派恩敬寺の僧で、寶曆三年四月に生まれた。幼名左京。長じて佛典を洛陽の學寮に學んで寮司に任ぜられ、傍ら池野大雅に就いて畫を學び之を能くした。觀了の池野氏を冒したの